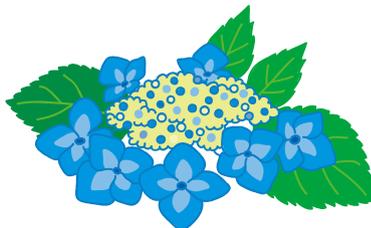


## 不二速報



発行日 2019年6月20日  
第1号 2019年度執行部紹介【全教職員配布】

静岡：内線 2790  
suu@jade.dti.ne.jp  
浜松：内線 3910  
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp  
組合HP：  
<http://shizudai-union.net/>

## 2019年度 組合執行委員です！

より良い職場環境の実現のために頑張ります。一年間よろしくお願い致します。

## 執行委員長 石原 剛志（教育学部支部）

今年度、執行委員長を務めることになりました石原剛志（いしはらつよし）です。昨年度の事務局長につづいて2年続けての役員です。

いま、大学をめぐる政策が大きく動いています。一法人で複数の国立大学を運営できる法改正ももちろんですが、2020年の4月に施行される予定の「大学等の就学の支援に関する法律」もそうです。後者について政府は、これを高等教育の無償化をするための法だと言っています。しかし、実際には、これまで国立大学で授業料減免の対象となっていた所得階層（中間層）が対象から外れることになり、大学に対しても「無償化」とは関係ない要件（実務経験のある教員による授業科目の単位数を卒業に必要な1割以上にする。産業界の外部人材を複数理事に任命すべき等）が課されることとなります。これが、学生が学生らしい学びや生活につながる「無償化」となるのか。大学が大学らしくあることができる「無償化」と言えるのか。しっかりと見定めていきたいです。

このことに関連して、先日、高等教育無償化プロジェクト FREE を立ち上げた学生・岩崎さんの話を聞いてきました。FREE がつかんだ学生のリアルとは、例えば、バイトがキツすぎて授業で寝てしまったりゼミ準備がしっかりできないという悩み、奨学金を返すことができるのかという不安、経済的な余裕がないので交友関係を広げないようにしているという学生、経済的な理由で大学院への進学を諦めたという学生、1000人以上の声を集めた報告は、説得力のあるものでした。今後、さらに1万の学生の声や実態を集めて可視化し高等教育無償化を目指す、という報告に感動しました。私も、この一年、みなさんの声を聞き、アンケートなども積極的に取り組んで、教職員の働き方のリアルをしっかりと理解する、そこから始めたいと思います。



## 副執行委員長 立岡 浩一（工学部支部）

今年度、副執行委員長（兼 工学部支部委員）を務めさせていただく事になりました電子物質科学科の立岡です。よろしくお願いいたします。これまでに支部長、副支部長、中執の委員をさせていただいてから久しく役を仰せつかりました。

前副執行委員長の前田先生から引き継ぎを受けまして今年度取り組むべき重要な案件が多くある事に改めて気付かされました。昇給、超勤・サービス残業の実態、雇い止め問題など緊急に取り組むべき内容です。ぜひ組合員の皆様とともにひとつひとつ行動していきたいと思っています。組合の拡大についても例年引き継がれている大きな課題です。年度初め恒例の組合ガイダンスに参加させていただきました。支部委員会や執行委員会の開催、定期大会の準備などすでに活動が始まっています。委員の皆様と力を合わせて精一杯務めたいと考えております。1年間何卒よろしくお願いいたします。



## 事務局長 花方 寿行（人文社会科学部支部）

今年度事務局長を務めることになりました花方寿行（はながたかずゆき）です。組合役員は10年近く前に1度務めて以来での大役になります。

この10年間、僕が静岡大学に赴任してからはほぼ20年になりますが、大学の雇用条件・職場環境は残念ながら

悪化の一途をたどっています。法人化以降、文部科学省・財務省からの容赦ない運営費交付金削減とそれと反比例するような業務増加への圧力を受け、静岡大学においても「金がない」といえばすべて済むかのように人員削減や任期付・非正規雇用への切り替えが強硬に進められてきています。その一方で、これも政府からの要求を受けて権力が執行部に集中した結果、現場の声が大学の方針決定に反映されなくなっています。また短期の補助金獲得のために人員と予算が期間限定のプロジェクトに注ぎ込まれ、期間が終われば維持ができなくなり撤退するという、長期的なヴィジョンのない方針に振り回されて、人的にも資金的にも余計な疲弊を強いられているのが現状です。



もちろんこうした問題は静大だけのことではなく、現在日本の公的機関すべてに共通するものです。そして同じく全国に共通することですが、皮肉にも労働者保護のために組合の力が必要とされているまさに今、組合加入者は減少を続け、組合活動の存続が危ぶまれるまでになっています。

今年度の役員にどれだけのことができるかはわかりませんが、雇用条件・職場環境の改善に関して少しずつでも確実に成果を上げると共に、そうした組合の役割を未加入の教職員の方々に理解していただき、組合に加入し活動を支援していただけるよう広報にも力を入れていきたいと思っています。

### 執行委員 上藤 一郎（人文社会科学部支部）

本年度、執行委員を務めることになりました、人文社会科学部（経済学科）の上藤です。統計学を専攻しています。十年前に関西の私学から静大に転任してきましたので、組合員としての経歴はまだ短く、また組合活動もほとんど未経験なのですが、執行委員の一人として皆様のお役に立てることができるよう努力してきたいと思っています。

以前勤務していた大学では組合はなく、労働者の基本的な権利が踏み躪られることも多々ありました。そういうこともあり、組合があることの意味はやはり大きい、とつくづく感じております。この一年、どうぞよろしくお願いいたします。



### 執行委員 吉川 真理（人文社会科学部支部）

本年度執行部委員を務めさせていただく、地域法実務実践センターの吉川です。執行部委員を務めるのは、静大に赴任してから2度目となりますが、一回目に委員を務めた当時と比較すると、大学を取り巻く状況が大きく変化していることに気付かされます。非正規雇用の事務職員が大幅に増え、多くの部署では人手が足りず、事務職員一人当たりの仕事量も増加傾向にあります。教員の皆さんも職員の方からのメールが遅い時間に来ることを経験されているのではないのでしょうか。また、教員のコマ数も増え、非常勤講師の雇用もままならない中、多くの教員は、日々の講義と事務処理に追われ、ゆっくりと研究をする時間を取れないのが現状です。静大に赴任したときは、伸び伸びしていて良い大学だと思っていましたが、今ではすっかり様変わりしてしまいました。微力ではありますが、静岡大学が教職員にとって働きやすい職場となるよう、皆様と一緒に励んでいきたいと思えます。

私の専門は刑法で、最近、性犯罪をめぐる日本やドイツ、オーストリアにおける議論を中心に研究をしています。#MeToo運動が世界的なムーブメントとなり、刑法の性犯罪規定の見直しが各国で進む中、自分が歴史的な転換点にいることを日々実感している今日この頃です。

趣味は、旅行と音楽鑑賞で、特に最近、Sigrid というノルウェー出身の女性歌手にはまっています。東京に住む10歳の姪っ子も、彼女の”Don't Feel Like Crying”という曲が大好きで、彼女の歌声に併せて歌っています。皆さんも良かったら彼女の曲を視聴してみてください。



右側が筆者

## 執行委員 石川 文子（人文社会科学部支部）

本年度、執行委員となりました人文社会科学部支部の石川文子です。本年度、初めて執行部の活動に関わることになり、わからないことばかりで色々勉強させて頂いております。執行部の先生方にご指導を頂きご迷惑をおかけしないように頑張りたいと思っております。

私の専門は、財務会計論で企業の財務分析や会計ルールなどを研究対象としております。近年、企業を取り巻く状況も激変し、少子高齢化に伴う人口動態の変化、AIの発達と生産年齢人口の減少、さらには、市場の縮小と人件費の上昇によるコスト上昇など企業経営にとっても厳しい問題が山積しております。先頃、経団連の会長やトヨタの社長までも終身雇用の維持は困難との見解を示しましたが、これからの時代において、これまでの雇用システムを維持できないほど経済環境は変化し、ビジネスモデルの変化を余儀なくされているといえるでしょう。そのような、構造の変化は国立大学法人の運営においても同様で、国家予算における教育費の削減、運営費交付金の削減、そして、人口減少に伴う学生数の減少による収入減が予想され大学同士の統合という形でスリム化が促されているように感じます。そして同時に、コスト削減の視点から、昇給停止や新規採用の抑制、非常勤教員の増加など増々厳しい雇用環境へと変化してきております。

このような過酷な環境の変化のなか、組合執行部の一員としてどこまでお役に立てるかわかりませんが、少しでも取り巻く環境の改善になるよう努めていきたいと思っております。1年間、どうぞよろしくお願い致します。



## 執行委員 冬木 春子（教育学部支部）

今年度、初めて執行委員を務めさせて頂くことになりました、冬木春子です。私の専門は家族関係学で、最近では子育て期にある親の生活スタイルが子どもの生活習慣にどのように影響しているのかを研究しています。プライベートでも小学校2年生の子育て中でして、子どもとの時間をもっと大切にしたいと願う一方で、教育や研究もより充実させたいという葛藤を抱えています。

静岡大学は激動の時期を迎え、私たちの研究、教育条件や労働条件も深刻な影響が生じることが予想されます。その中で、教職員組合に求められる役割もますます重大なものになると痛感しております。

一年間どうぞよろしくお願い致します。



## 執行委員 室伏 春樹（教育学部支部）

今年度、執行委員として調査広報を担当します教育学部支部の室伏春樹です。初めて執行部の活動に携わります。専門は技術教育学で、世の中の技術的な変化を子供に体験的に理解させるための教材・教具を開発したり、そもそも教えるべき「技術」とは何であるかを考えたりしています。今年度は2020年から実施される小学校のプログラミング教育に向けて、具体策を検討しています。社会が変化することで求められる知識や技能が変化していきますが、組合も同様に変化を迎えている時期であると感じています。今の静岡大学が明るい未来を迎えるためにも、組合活動においては石原執行委員長を始めとした諸先輩方の姿を見ながら尽力してまいります。一年間よろしくお願い致します。



2019年度 第121回定期大会 6月27日(木) 16:00~18:00  
静岡:共通教育 A303会議室 浜松:創造科学技術大学院棟2F 会議室

## 執行委員 平田 寿 (工学部支部)

本年度、執行委員となりました技術部の平田です。10年ほど前に一度組合の仕事をした記憶がありますが、右も左も分からず言われるがままやっていたので全くの素人です。

皆様には色々とお迷惑をおかけすると思いますが、一年間宜しくお願いします。

## 執行委員 赤尾 晃一 (情報学部支部)

情報学部の赤尾晃一です。組織法制を分掌することになりました。6年ぶり3回目の執行委員になりますが、経験値がさほど高いわけではありません。

情報学部支部も組合員数の減少に直面しています。むろん、原因の過半は定年退職者によるものなのですが、中堅・若手の多くの教職員にとって、組合運動が魅力的でなくなっているのが事実です。今はまだ処方箋を持ち合わせていませんが、他の役員の方々と議論をしていく過程で、さまざまな方策を試行錯誤していきたくと存じます。

個人的には昨年、還暦を迎えました。家族たちが熱海旅行をプレゼントしてくれました。宿泊したホテル名にも因んで、これまでとはちょっと違う“ニューアカオ”で臨みたいと存じます。



### 6/9 組合企画『小国神社散策』行ってきました！

あいにく小雨、申込みの半分くらい、7人(静岡4人、浜松3人)で歩いてきました。

遠江一宮駅から送迎バスで、小国神社へ。大きな神社です。微妙な空模様でしたが、本殿の奥のほうに行ってみました。宮川沿いの遊歩道をのんびり歩きました。あたりはカエデだらけ、紅葉の季節だったらどれだけ見事かというくらい。

30分強歩くと西宮神社ですが、天気相変わらずイマイチなので、ここで小休止して引き返しました。

神社に戻り、お待ちかねの花菖蒲園です。ややピークを過ぎた感はありましたが、色とりどりの花菖蒲がきれい。皆さん、写真を撮りまくっていました。



『この働き方、働かせ方は ちょっと おかしい のでは・・・』、『こんな風 になれば、もっと 働きやすくなる と思うのに・・・』

皆さまの小さな“気づき”のなかに、労働環境を改善し、私たちの健康、安全、生命を守る方策づくりの種(シーズ)が内包されていると思います。

組合へ、どうぞその“気づき”の声をお寄せください。どんな小さなこと、些細なことでもかまいません。

健康・安全あつての仕事です。労働者視点を加味した職場改革・大学改革を、皆さまとの共助の関係性のなかで進めていくことができれば幸いです。

静岡大学教職員組合へのご加入をお待ちしております。共に支えあいましょう。

<問合せ先(組合事務局)>

静岡 内線 2709  
suu@jade.dti.ne.jp

浜松 内線 3910  
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

組合 HP  
<https://shizudai-union.net/>

